

日西四方闇黒地戰山崩世間所有墓門並

開所有死人並悉得活其人見如此亦爲不信

170 經教死活並爲彌師訶其人大有信心人即云

五 殘經の文體文字及び時代

此の殘卷を讀むものは、一見して其の奇怪なる文體に驚かされるに相違ない。如何にしても之を正しい漢文と認めることの出来ないのは言ふまでも無いことで、従つて其の意味を正しく捕捉することも甚だ困難の事である。此の點に於てはかの一神論とほゞ同様の性質を有するものである、同じ漢文の景典にしても、三威蒙度讚の如きは、七字句の形を用ひた漢文として整ふたものであり、尊經の目錄に見える經典も、景教碑文の撰者景淨の譯出する所であるといふ以上、多分また立派な漢文であつたらうと考へられるが、獨り一神論や、この序聽迷詩所經に於てかゝる奇怪な行文を見るのは、思ふに此等の經典の撰者が、漢語漢文の學習には従事しながら、まだ充分にそれに通達し得なかつた異邦人であり、またその文章を補訂し得る程の教徒を有しなかつた時代に於て作られたが爲ではあるまいか。卷中に存する誤字僞字錯簡などの多いこともまた注意を惹く所であるが、思ふに經典の文句其のものに、本來既に不可解の點が多いので、轉寫も殆んど機械的に行はれ、従つて誤脱の生ずることも、普通の場合に於けるよりも一層甚しかつたことであらうし、また一方から見れば、當初學識のある人々が此の教に歸依して、經典の翻譯や轉寫に参加従事するものゝ少かつたことの反證とも認められよう。

此の經典の撰述及び書寫された時代についても、無論判然としたことは分らないが、然し書寫の字體の上よりす